

令和 6 年度
自己点検・評価報告書

令和 7 年 3 月
獨協医科大学附属看護専門学校三郷校

令和6年度 自己点検・自己評価を実施して

本校は、獨協医科大学附属看護専門学校姉妹校として獨協医科大学埼玉医療センターで働く看護師の育成と埼玉県看護師確保を目的として2015年4月に開校しました。2019年4月より入学定員を40名から80名に増員し、約9割が獨協医科大学埼玉医療センターに就職しています。

めざす学校像は、「豊かな人間性を備え多様な状況に適応し看護実践できる看護師を育成し、地域とともに育つ学校」とし、地域に根差した看護師の育成に努めております。

本学の教育理念と令和4年度カリキュラム改正のねらいをふまえ、豊かな人間性を備え看護実践能力のある看護師を育成することを目的に、高度急性期から在宅医療まで、患者の状態とその場の状況を判断し必要な看護が実践できるよう教育に取り組んでいます。教育方法の要としてプロジェクト学習を用いており、課題発見力・情報収集力・計画力・ロジカルな思考力・課題解決力・俯瞰力・自己評価力・自己肯定力などを身につけ、多様化・複雑化する社会においても、対象やその場の変化する状況に対応できる力を育成しています。

加えて、令和6年度においては、新たに放送大学との協定により多様な学習ニーズと高いキャリア志向に対応できるようになりました。また、地域の人々と協働しながら、持続可能な地域社会を創造することをめざして学生とともに事業を行っています。

今年度は開校10周年と節目の年となりました。次年度は、自己点検自己評価結果及び関係者評価をふまえて課題改善に取り組み、三郷校のさらなる発展につなげて参ります。

今後も、より一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年3月

獨協医科大学附属看護専門学校三郷校 学校長 小林 佳志子

目次

1. 学校の現況	1
2. 教育理念・教育目的・4つのポリシー	3
3. 令和6年 学校運営方針	5
4. 自己点検・自己評価項目の達成と取り組み状況	7
1) 理念・目的・期待する卒業生像	9
2) 学校運営	10
運営方針	
事業計画	
運営組織	
人事・給与制度	
意思決定システム	
情報システム	
課題と今後の改善方策	
3) 教育活動	11
目標の設定	
教育方法・評価等	
成績評価・単位認定等	
資格・免許の取得の指導体制	
教員・教員組織	
課題と今後の改善方策	
4) 学習成果	12
就職率	
資格・免許取得率	
卒業生の社会的評価	
課題と今後の改善方策	

5) 学生支援	13
就職等進路	
中途退学への対応	
学生相談	
学生生活	
保護者との連携	
卒業生・社会人	
課題と今後の改善方策	
6) 教育環境	15
施設・設備等	
学外実習・インターンシップ	
防災・安全管理	
課題と今後の改善方策	
7) 学生の募集と受け入れ	16
学生募集活動	
入学選考	
学納金	
課題と今後の改善方策	
8) 財務	17
予算・収支計画	
監査	
財務情報の公開	
課題と今後の改善方策	
9) 法令等の遵守	18
関係法令・設置基準等の遵守	
個人情報保護	
学校評価	
教育情報の公開	
課題と今後の改善方策	
10) 社会貢献・地域貢献	19
社会貢献・地域貢献	
ボランティア活動	
課題と今後の改善方策	

1. 学校の現況

1) 学校名及び設置者

学校名:獨協医科大学附属看護専門学校三郷校

設置者:学校法人 獨協学園 理事長 猪口 雄二

2) 所在地及び認可年月日(所轄庁名)

所在地:埼玉県三郷市彦成3-11-21

認可年月日:平成27年2月13日(文部科学省)

3) 沿革

- 2014(平成26年)8月 獨協医科大学附属看護専門学校三郷校設置認可
- 2015(平成27年)1月 あじさい看護専門学校へ研修派遣(教員)
- 3月 ポートフォリオ・ルーブリック評価導入のための研修
- 2015(平成27年)4月 獨協医科大学附属看護専門学校三郷校開校
入学定員:40名 3年課程 収容定員:120名
初代学校長 林雅敏就任
- 4月 病院・学校教育連携プロジェクト会議 開始
- 2015(平成27年)6月 三郷校教員による模擬患者(地域の老人会)養成開始
千葉県立野田看護専門学校へ授業見学(逆向き設計授業)
- 8月 獨協越谷病院・三郷校合同研修(プロジェクト学習とポートフォリオの基本)
- 2015(平成27年)10月 模擬患者を使用した演習授業開始
- 2015(平成27年)10月 指定校推薦・社会人入学試験導入
- 2016(平成27年)8月 子ども大学みさと(三郷市)本校にて開催
- 2016(平成28年)10月 公募推薦入学試験導入
- 2018(平成30年)8月 入学定員変更申請認可
- 2019(平成31年)4月 獨協医科大学附属専門学校三郷校定員変更
入学定員:80名 収容定員:240名
第2代学校長 上田善彦就任
- 2019(令和1年)6月 学校関係者評価委員会 設置
- 2019(令和1年)9月 「大学等における修学の支援に関する法律による修学支援の対象機関となる大学等(確認大学等)」として公表
- 2020(令和2年)3月 三郷校新型コロナウイルス感染症対策会議発足
- 2021(令和3年)4月 第3代学校長 小林佳志子就任
- 12月 カリキュラム改正申請認可
- 2022(令和4年)4月 8回生より新カリキュラムの実施
- 2023(令和5年)12月 放送大学との連携協力の締結
- 2024(令和6年)2月 UR都市機構との地域共創事業「みんなで健康寿命を延ばそう!」プロジェクトの実施
- 2024(令和6年)4月 開校10周年

4) 課程・学科の構成（令和6年4月1日現在）

課程名	学科名	開設年月日	修業年限	入学定員	収容定員
医療専門課程	看護学科	平成27年4月	3年	80名	240名

5) 学生・教員数及び充足率（人、％）

	収容定員	在籍数	定員充足率	専任教員数
令和6年5月1日	240	237	98.8%	21
令和5年5月1日	240	241	100.4%	20
令和4年5月1日	240	244	101.7%	20
令和3年5月1日	240	246	102.5%	20

6) 就職・進学者数（人）

年度	卒業生数	就職		進学	その他
		埼玉医療センター	他施設		
令和6年度	71	58	12	1	0
令和5年度	83	80	1	2	0
令和4年度	83	77	4	0	2
令和3年度	76	69	7	0	0

7) 看護師国家試験合格率（新卒のみ）（人、％）

	合格者数／受験者数	合格率	全国平均合格率
令和6年度卒（8回生）	71／71	100%	90.1%
令和5年度卒（7回生）	78／83	94.0%	87.8%
令和4年度卒（6回生）	80／83	96.4%	90.8%
令和3年度卒（5回生）	76／76	100%	91.3%

8) 入学試験受験者数（人）

実施年度	指定校	公募推薦	社会人	一般A日程	一般B日程	総数
令和6年度	15	48	4	31	6	104
令和5年度	13	62		51	5	131
令和4年度	13	52		75	14	154
令和3年度	14	67		94	11	186

9) 入学試験合格者数 (人)

実施年度	指定校	公募推薦	社会人	一般A日程	一般B日程	総数
令和6年度	15	31	2	24	5	77
令和5年度	13	29		44	4	90
令和4年度	13	27		60	5	105
令和3年度	14	26		53	4	97

2. 教育理念・教育目的・4つのポリシー

教育理念

獨協医科大学は、「学問を通じての人間形成」を建学の精神としている。獨協医科大学附属看護専門学校三郷校は、この建学の精神に則り、患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される看護師を育成する。

教育目的

豊かな人間性を備えた、看護実践能力のある看護師を育成する。

ディプロマポリシー

- 1) 専門職業人としての倫理感に基づく看護を実践できる。
- 2) 看護の対象を総合的に理解し、科学的な知識・技術に基づいた看護を実践できる。
- 3) 保健・医療・福祉チームの一員として、看護師の役割と責任をもって協働できる。
- 4) 看護の発展や質の向上に貢献できるよう、主体的学修能力を身につける。
- 5) 国際的視野を持ち看護を実践できる。

カリキュラムポリシー

- 1) 本カリキュラムはナイチンゲールの看護論を基盤に、人間・環境・健康・看護の4つの概念で構成する。
- 2) 看護の実践的・専門的職業教育を通し、人間形成を目指して講義や演習においても実践現場を想起し、生命に関わる職業である看護師の責務を考えられるようにする。
- 3) 保健・医療・福祉チームにおける連携と協働をふまえ、高度急性期の医療から地域での療養生活において、対象やその場の状況を適切に判断し質の高い看護ができる看護師を育成するよう科目を構成する。
- 4) 共同学習により、多様な価値観にふれながら課題を探求し、変化する社会や人々のニーズをふまえ保健・医療・福祉チームにおける連携と協働、倫理観を身につける。
- 5) 看護に必要なコンピテンシーを育成するために、プロジェクト学習方法を取り入れ、課題発見情報リサーチをもとに論理的に思考を展開させ、課題解決していく力と主体的な学習する姿勢を身につける。

- 6) 実習においては、国際的視野を持ち多様な対象との関係形成を基盤として看護実践とリフレクションによる体験の意味づけにより個別の状況に応じた看護を学ぶ。
- 7) 学修成果の評価は、到達目標と成果を示す試験・レポート・グループワークや授業への参加状況、実習評価等を含め、多様な方法で総合的に行う。加えて、学修の取り組みについて学生自身が自己評価を行い、課題解決に向けて取り組む。

アドミッションポリシー

- 1) 看護師を目指す意志を明確に持っている人
- 2) 看護を学ぶ上で必要な基礎学力を有する人
- 3) 人間・健康・環境や人々の生活に関心がある人
- 4) 他者を尊重し人との関わりができる人
- 5) 自ら考え意見を表現できる人
- 6) 地域社会や国際社会に貢献する意欲のある人

アセスメントポリシー

アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーに基づいて、組織レベル・教育課程レベル・授業科目レベルの段階で学修成果を把握し評価・検証する。

- 1) 獨協医科大学附属看護専門学校三郷校（組織）レベル

アドミッションポリシーに基づいて入学した学生が、卒業までに身につけるべき資質・能力（ディプロマポリシー）を満たし、社会に貢献する人材に成長しているか評価し、アドミッションポリシー・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーの見直し及び教育の質保証に役立てる。

- 2) 教育課程レベル

ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づく教育課程で編成された学修成果を上げているか、また卒業までに身につけるべき資質・能力（ディプロマポリシー）を満たす人材にどれだけ近づいているか評価し、カリキュラム改善・学修支援に役立てる。

- 3) 授業科目レベル

ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づく学修内容で構成され、学修成果を上げているか科目ごとに評価し、授業改善・学修支援に役立てる。

3. 令和6年度 学校運営方針

獨協医科大学がNEXT50に掲げている「学生、教職員に魅力ある大学」、「未来を拓く良質な医療人の育成のもと、輝き続ける大学」をふまえ、医科大学附属の豊かな教育環境と地域の協力を得ながら魅力ある学校づくりを進める。プロジェクト学習を教育の要とし、高度急性期医療から在宅で療養するあらゆる対象と変化する状況に関心を寄せ、対象とその場の状況を判断し対象にとって最善となる質の高いケアを探求するとともに、チーム医療において連携・協働する基礎的能力をもつ看護師を育成する。

1. 教育・学生支援

学習者が最終的に生涯学習者になるためには、自分たちが能動的に主体性をもって取り組む力と責任感が必要であり、学習者の目標設定、自己効力感、自己調整できることが重要であるといわれている。そこで、プロジェクト学習を教育の要として継続的に活用しこの学習方法の定着をはかる。更に自律的・主体的・意欲的・積極的な学びを促し、様々なコミュニティによるインタラクティブな学習環境の中で協働する姿勢を身につけることや、人間性を涵養し幅広い視野と多様性を熟成する教育を強化していく。

- 1) 本校の教育の要であるプロジェクト学習を用いて、変化する対象とその場の状況を判断し対象のQOL向上をめざした看護を実践する力を育む。
 - ・教員のプロジェクト学習を用いた実習指導のスキル向上を目的とする学習会を実施する。
 - ・教員研修によりプロジェクト学習を用いた実習指導の実践的理解を深め、後期の実習指導に活かす。
 - ・実習施設との実習指導会議により、成果と課題を共有し指導にいかす。
- 2) 卒業時到達度評価を含むカリキュラム評価により教育の成果と課題を明確にし、教育課程編成・教育方法・教育評価の検討につなげる。
- 3) 学生がキャリアビジョンをもち自ら学び続けることをめざしキャリア教育3か年計画を実行する。
 - ・学生がキャリアビジョンを描き歩み続けるよう科外活動を実施する。
 - ・チューター教員は多様な背景や特性を持つ学生を理解し学生の成長を支援する。
- 4) 多様な学習ニーズと高いキャリア志向に対応した教育環境を充実させる。
 - ・放送大学とのダブルスクールの体制づくりとして教材整備や手続きのサポートを行う。
 - ・医療人としての教養と専門性を育むため、医科大学の教育環境の活用と教育連携をはかる。
 - ・卒業生の支援体制を構築し、病院との教育連携による看護師のキャリア支援を進める。

2. 研究

教育の質向上をめざし、教員の教育実践に関わる研究的取り組みと自己研鑽を支援する。

- 1) 共同研究および教育実践報告を支援する。
- 2) 授業研究の体制を構築する。

3. 運営

新たな組織編成による権限の明確化と組織運営に関する意識統一により、各自が自分事として秩序をもって学校運営・教育を担い組織力・教育力の向上をめざす。また、地域の人々との協働による地域協創事業を通し地域とともに育つ学校づくりを進める。

- 1) 医科大学の方針及びFDを目的とした人事交流を進める。
- 2) 教員の教育力と倫理観を育成するFDを実施する。
- 3) 規定と方針に基づく組織運営と教職員の連携協働を行う。
- 4) 学生の力をいかした地域共生協創活動と、地域との合同防災訓練の実施を進める。
- 5) アドミッションポリシーをふまえた学生獲得に向けた入試・広報活動を強化する。
- 6) 保護者・卒業生、就職先のポータルサイト構築の検討と外部の意見を踏まえ課題改善に取り組む。
- 7) 関係施設や地域の人々に寄与する開校10周年記念事業を企画し準備を進める。

4. 自己点検・自己評価項目の達成と取り組み状況

評価方法

評価者：校長以外の教職員全員（26名）（回収率 100%）

評価時期：年1回（2月）

評価方法：私立専門学校等評価研究機構「専修学校のための学校評価ガイドライン」（平成25年3月文部科学省策定）にもとづく自己点検・自己評価を行う。

4段階評価と評価の根拠を記載する。

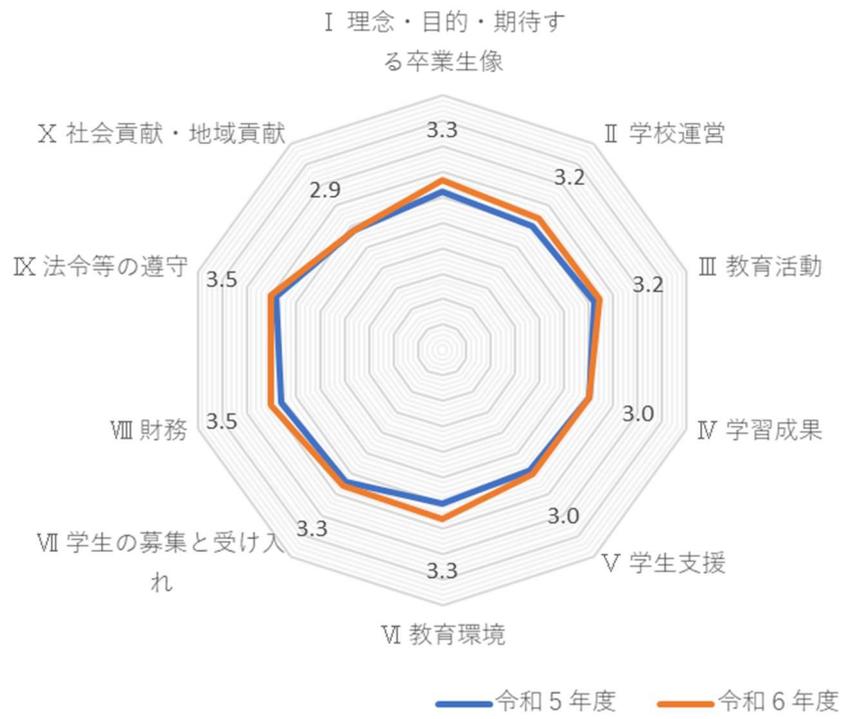
評価尺度：4点適切 3点ほぼ適切 2点やや不適切 1点不適切

自己点検・自己評価の領域区分と評価項目

大項目	中項目	小項目	大項目	中項目	小項目				
I 理念・目的・期待する卒業生像	1) 理念・目的・期待する卒業生像	1 理念・目的・期待する卒業生像は、定められているか	V 学生支援	4) 学生生活	30 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか				
		2 期待する卒業生像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか			31 学生の健康管理を行う体制を整備しているか				
		3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか			32 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか				
		4 社会ニーズ等を踏まえた将来構想を掲げているか			33 課外活動に対する支援体制を整備しているか				
II 学校運営	1) 運営方針 2) 事業計画 3) 運営組織 4) 人事・給与制度 5) 意思決定システム 6) 情報システム	5 理念等に沿った運営方針を定めているか	6) 卒業生・社会人	35 卒業生への支援体制を整備しているか	34 保護者との連携体制を構築しているか				
		6 理念等を達成するための事業計画を定めているか			36 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか				
		7 学校のための組織を整備しているか			VI 教育環境	37 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	38 学外実習・インターンシップ等		
		8 人事・給与に関する制度を整備しているか					39 学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか		
		9 意思決定システムを整備しているか					39 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか		
		10 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか					40 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか		
III 教育活動	1) 目標の設定	11 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	VII 学生の募集と受け入れ	1) 学生募集活動	41 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか				
		12 学科毎に修行年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか			42 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか				
	2) 教育方法・評価等	13 教育目的・教育目標に沿った教育課程を編成しているか			43 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	2) 入学選考	44 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか		
		14 教育課程について外部の意見を反映しているか			45 経費内容に対応し、学納金を算定しているか		3) 学納金	46 入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	
		15 キャリア教育を実施しているか			47 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか			VIII 財務	48 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか
		16 授業評価を実施しているか			49 私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実行しているか				
	3) 成績評価・単位認定等	17 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか			50 私立学校法に基づき財務情報公開体制を整備し適切に運用しているか	IX 法令等の遵守			1) 関係法令、設置基準等の遵守
		18 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づいているか			2) 個人情報保護		52 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか		
	4) 資格・免許の取得の指導体制	19 資格・免許取得の指導体制はあるか					3) 学校評価	53 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	
		20 資格・要件を備えた教員を確保しているか			54 自己評価結果を公表しているか				
	5) 教員・教員組織	21 教員の資質向上への取組を行っているか			55 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4) 教育情報の公開		57 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	
		22 教員の組織体制を整備しているか			56 学校関係者評価結果を公表しているか				
IV 学習成果	1) 就職率 2) 資格・免許取得率 3) 卒業生の社会的評価	23 就職率の向上が図られているか	X 社会貢献・地域貢献	1) 社会貢献・地域貢献	58 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか				
		24 資格・免許取得率の向上が図られているか			59 国際交流に取り組んでいるか				
		25 卒業生の社会的評価を把握しているか			60 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか				
V 学生支援	1) 就職等進路 2) 中途退学への対応 3) 学生相談	26 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか							
		27 退学率の低減が図られているか							
		28 学生相談に関する体制を整備しているか							
		29 留学生に対する相談体制を整備しているか							

(私立専門学校等評価研究機構 専修学校のための学校評価 参考)

自己点検自己評価結果



I 理念・目的・期待する卒業生像

中項目	小項目		評価	根拠
1) 理念・目的・期待する卒業生像	1	理念・目的・期待する卒業生像は、定められているか	3.6	理念・目的・4ポリシーを定めている。主体的学修能力や看護実践者を育成する教育内容の再検討が必要である。関連病院との連携会議により意見のすり合わせを行っている。 FDでプロジェクト学習を振り返り教員間で共通認識しようとしている。地域協創プロジェクトを始め、地域に密着した教育が行われている。 看護師不足という社会情勢に対し、看護師育成に取り組んでいる。長く看護師として働き続ける人材を育成する必要がある。
	2	期待する卒業生像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3.3	
	3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3.2	
	4	社会ニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3.2	
		平均	3.3	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の要としているプロジェクト学習を用いた教育の定着 ・社会のニーズと医科大学の将来構想についての共通理解 			
今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・変化する状況を判断し看護を実践できる学生の育成を目指した実習教育の強化 ・医科大学の将来構想と学校運営方針の情報共有 			

II 学校運営

中項目	小項目		評価	根拠
1) 運営方針	5	理念等に沿った運営方針を定めているか	3.4	医科大学の理念や社会要請をふまえ年度方針や事業計画を定めており周知されている。
2) 事業計画	6	理念等を達成するための事業計画を定めているか	3.3	
3) 運営組織	7	学校のための組織を整備しているか	3.2	令和4・5年度に委員会の構成が変更になっている。ワーキンググループの横の繋がりが少ないため、必要なことは情報共有し協働できるようにする必要がある。
4) 人事・給与制度	8	人事・給与に関する制度を整備しているか	3.2	組織として整備されてる。教員配置の変更理由等は共通理解できるようにする必要がある。
5) 意思決定システム	9	意思決定システムを整備しているか	3.1	決裁までの適切なプロセスにより組織の秩序は保たれている。意思決定システムの整備と周知が必要である。
6) 情報システム	10	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3.0	情報のシステム化はされているが、運用のスキル不足が課題である。システム活用による業務効率の推進が必要である。
		平均	3.2	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定システムの周知 ・委員会役割の理解と協働 ・情報スキルによる業務の質と効率の向上 			
今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定システムの共通理解 ・委員会役割の可視化と年間行動計画に基づく業務の遂行と協働 ・教育や学校運営に関わる情報スキルの獲得と活用 			

Ⅲ 教育活動

中項目	小項目	評価	根拠	
1) 目標の設定	11	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3.3	教育課程の編成方針、実施方針は定められている。カリキュラム評価により修正が必要である。
	12	学科毎に修行年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3.3	学年毎の到達目標は示されている。到達レベルを明確にし、知識・技術を積み上げられるようにする必要がある。
2) 教育方法・評価等	13	教育目的・教育目標に沿った教育課程を編成しているか	3.0	教育目的・目標に添ったカリキュラムとなるように検討し実践力のある看護師を養成する必要がある。
	14	教育課程について外部の意見を反映しているか	3.0	関連病院との連携会議は行われているが、外部施設や外部講師との意見交換を積極的にできるようにする。
	15	キャリア教育を実施しているか	3.0	キャリア教育が系統立てて行われていない。教科目・教科外を含めて教育全体にキャリア教育の要素を含む意識で取り組む必要がある。
	16	授業評価を実施しているか	3.2	回答率が低いいためデータの活用に制限が生じる。回答率を上げる工夫が必要である。
3) 成績評価・単位認定等	17	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3.4	成績評価・修了認定基準に基づき運用している。
4) 資格・免許の取得の指導体制	18	目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づいているか	3.5	看護師養成所指定規則及び運営に関する指導ガイドラインに基づき教育課程を運営している。
	19	資格・免許取得の指導体制はあるか	3.2	看護師国家資格取得を目指し、教科目及び科外における教育を行っている。放送大学を受講している学生に対する指導体制はない。
5) 教員・教員組織	20	資格・要件を備えた教員を確保しているか	3.5	資格要件を明示して教員採用を行っている。
	21	教員の資質向上への取組を行っているか	3.2	FD や目標管理を用いた自己研鑽により教育力向上に努めている。FD を目的とする人事交流を行っている。

	22	教員の組織体制を整備しているか	3.2	委員会組織の一部変更もあり、組織運営に関する共通認識が必要である。
		平均	3.2	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム評価の可視化と課題の共有 ・看護師国家資格取得を目指した教育の充実 ・教員及び組織の教育力向上への取り組み 			
今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ディプロマポリシーに沿った教育課程編成と教育実践 ・体系化したキャリア教育の実行 ・外部施設との積極的な意見交換 ・適正な授業評価となる調査方法の検討と教育 			

IV 学習成果

中項目	小項目		評価	根拠
1) 就職率	23	就職率の向上が図られているか	3.0	進学者を除いた就職率は 100%であるが、関連病院への就職に向けた対策が必要である。
2) 資格・免許取得率	24	資格・免許取得率の向上が図られているか	3.0	ワーキンググループを中心とした取り組みを行っている。成績低迷者の引き上げや低学年からの学習習慣の確立が必要である。
3) 卒業生の社会的評価	25	卒業生の社会的評価を把握しているか	2.9	関連病院との情報交換はされているが、その他社会的評価の把握は十分ではない。
		平均	3.0	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期医療を担える看護師の輩出 ・国家試験合格率 100% ・社会的評価の把握 			
今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・急性期看護の実践力強化 ・国家試験全員合格を達成する教育 ・社会的評価を把握する体制の構築 			

V 学生支援

中項目	小項目		評価	根拠
1) 就職等 進路	26	就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3.3	担当者を配置し進路支援の体制を構築している。支援内容と方法について検討する必要がある。
2) 中途退 学への対 応	27	退学率の低減が図られているか	2.9	今年度退学率は0.4%であるが休学者が増えている。教職員間で情報共有し多様化する学生に対し早期対応するよう努めている。
3) 学生相 談	28	学生相談に関する体制を整備しているか	3.4	カウンセリング室やご意見箱の設置がある。チューター制を活かし情報共有に努めている。在校生アンケートより、87%が「学業についての支援が十分である」と回答している。
	29	留学生に対する相談体制を整備しているか	2.2	現在は留学生がいない。今後、留学生へ門戸を広げるなら必要な時期に関係機関へ働きかけが必要になる。
4) 学生生 活	30	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	3.4	本校独自の奨学金がある。また他の奨学金や病院アルバイト等の説明を行っている。
	31	学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3.3	関連病院の協力を得て、健康診断やワクチン接種、カウンセリングを行っている。
	32	学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	2.2	学生寮の設置の予定はない。自己点検評価項目の見直しを含めた検討の必要性がある。
	33	課外活動に対する支援体制を整備しているか	3.0	在校生アンケートより、8割を超える学生が教科外活動が充実していると回答しているが、学生の科外活動の意識は高くない。人間性の涵養を理念としていることもあり、ボランティアや自治会活動が活発になるよう支援する必要がある。
5) 保護者 との連携	34	保護者との連携体制を構築しているか	3.4	各学年・全学年を対象とした保護者会を開催した。課題のある学生に対する保護者との連携は迅速に行われている。保護者連絡先の登録により、保護者への連絡が確実に届くようになったが、保護者ア

				ンケート結果より、学校から必要な情報の提供が少ないという結果があり改善していく。
6) 卒業生・社会人	35	卒業生への支援体制を整備しているか	3.1	ホームカミングディの参加率が低い。卒業生が望むプログラムの内容や方法・時期の検討が必要である。卒業生アンケートより、相談窓口の設置や気軽に校舎設備を活用できる体制の整備の要望がある。
	36	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3.1	多様性のある学生への支援や、離職や休職の卒業生の課題を把握し教育の検討が必要である。
		平均	3.0	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様性のある学生への支援 ・ 将来展望に基づく留学生支援や学生寮等の検討 ・ 教育に関する情報発信と外部の意見を反映させた運営 			
今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路や学習に関する悩みや課題を持つ学生への早期支援 ・ 多様なニーズを持つ学生に対する学習環境の整備 ・ 情報共有のためのプラットフォームの構築 ・ 卒業生の状況把握と支援体制構築 			

VI 教育環境

中項目	小項目		評価	根拠
1) 施設・設備等	37	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3.6	8割の学生は設備が整っていると回答しており、施設・設備は充実しているが、経年劣化の対応が必要な教材もある。
2) 学外実習・インターンシップ等	38	学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3.1	実習施設には、ねらいをふまえた学習になるように協力を得ている。インターンシップや海外研修の予定はない。
3) 防災・安全管理	39	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3.3	消防計画の作成・自衛消防隊の編成・火元責任者設置を行っている。
	40	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3.2	安全管理体制、事故対応マニュアルの整備が不十分である。
		平均	3.3	
課題	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学習のニーズに応える環境整備 安全管理体制の構築 			
今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 医科大学や関連病院との協力体制による多様な学習のニーズに応える環境づくりの検討 安全管理体制のマニュアルの整備 			

VII 学生の募集と受け入れ

中項目	小項目		評価	根拠
1) 学生募集活動	41	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	3.3	高校訪問、進学ガイダンス、進路指導担当者への説明会等を実施している。
	42	学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	3.1	LINE や WEB 広告を導入した。今後更なる学生獲得に向けた広報活動が必要である。
2) 入学選考	43	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3.4	合格判定基準を定めている。
	44	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3.0	入学者の傾向から、授業改善を行っている途中である。これまでの義務教育や高校教育で何をどこまで習得してきたのかを把握し、授業構築をしていく必要がある。
3) 学納金	45	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3.3	デジタル化進行に伴う教材・教具の整備など学習環境の充実のため令和6年度入学生より入学金の値上げと年間6万円の教育充実費を徴収している。学生のコピー代は一部の機器で有料であり、PC室の印刷についても検討が必要である。
	46	入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	3.5	募集要項へ明記し、適正に行っている。
		平均	3.3	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校運営方針とアドミッションポリシーに即した入学生の確保 ・ 入学者のレディネス理解による教育の工夫 			
今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医科大学附属である本校の強みを活かした教育と募集活動 ・ DX を用いた効果的で効率のよい広報戦略 ・ 変化する学生に合わせた教育の工夫 			

VIII 財務

中項目	小項目		評価	根拠
1) 予算・ 収支計画	47	教育目標との整合性を図り、 単年度予算、中期計画を策定 しているか	3.4	教育目標をふまえ医科大学を主体とし た単年度予算・中長期計画（基本計画： 2年毎）を策定している。
	48	予算及び計画に基づき適正に 執行管理を行っているか	3.5	事業計画に基づき予算を計上し、中間決 算・決算・学園定例監査・外部会計監査 を実施の上、執行している。
2) 監査	49	私立学校法及び寄付行為に基 づき適切に監査を実行してい るか	3.5	外部会計監査・学園定例監査を定期的に 実施済みである。
3) 財務情 報の公開	50	私立学校法に基づく財務情報 公開体制を整備し適切に運用 しているか	3.5	本校単体では公開していないが、医科大 学全体に含まれ公開している。
		平均	3.5	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・中期計画の策定や予算確定結果について教職員への情報発信 			
今後の 改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員会議にて中期計画の策定や予算確定結果について情報共有 			

IX 法令等の遵守

中項目	小項目		評価	根拠
1) 関係法令、設置基準等の遵守	51	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	3.5	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っている
2) 個人情報保護	52	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3.4	「獨協医科大学個人情報保護規程」や「ソーシャルメディア利用に関するガイドライン」に基づき実施している。
3) 学校評価	53	自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3.5	自己点検評価委員会を設置し評価を実施している。
	54	自己評価結果を公表しているか	3.5	毎年自己評価結果を公表している。
	55	学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	3.6	学校関係者評価委員会を設置し評価を行っている。
	56	学校関係者評価結果を公表しているか	3.6	毎年学校関係者評価結果を公表している。
4) 教育情報の公開	57	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3.4	学校だよりをホームページに掲載しているが、十分とはいえない。
		平均	3.5	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ SNS 等における情報リテラシーが十分ではない ・ 学校教育の情報発信 			
今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報リテラシーに対する教育の強化 ・ ホームページによるレスポンスの良い掲載 			

X 社会貢献・地域貢献

中項目	小項目		評価	根拠
1) 社会貢献・地域貢献	58	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.3	地域共生協創検討委員会を中心に、地域と密接な教育活動が行われている。
	59	国際交流に取り組んでいるか	1.8	現在は実施していない。多国籍の人々との交流を含めた地域でのボランティア活動の推進をはかる。
2) ボランティア活動	60	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3.5	科目「ボランティア論」をふまえた教科内・教科外活動で実施している。
		平均	2.9	
課題	<ul style="list-style-type: none"> 学生及び教職員による地域共生協創の取り組みの継続 			
今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> 地域共生協創の啓蒙と活動の継続 			